



# はい!よろこんで!!

2018.June vol.48 今治市倫理法人会会報

愛媛県今治市倫理法人会 (事務局) 〒793-0003 愛媛県西条市  
西ひうち 6-12 TEL 0897-56-1930 FAX 0897-56-1986

倫理経営講演会で熱く語る松尾隆徳氏



「俺がちよっと動けば、ポーズ!」 (光藤相談役) 「動かんとして」 (砂田会員)

## Topics & Special Edition

### 倫理経営講演会に109名!



箕浦将昭氏による事業体験報告

4月24日(火)18:30より今治市倫理法人会主催 平成30年度倫理経営講演会「大転換の時代~つねに活路あり~」が今治国際ホテルにて開催されました。

最初に箕浦将昭氏による事業体験報告「健康一番・肺がんからの学び」の講話がありました。「23歳の時にジェネリック薬品の卸売りで創業した。知人・友人のついで飛び込み営業をし、地域の医療機関を回った。田舎の先生は取引に応じてくれた。夫婦でがんばった。10年目で営業マン10数人をかかえるようになった。そんな時、仕入れ先の商社が『上場するので株を額面で買え』と言う。断ると薬の入荷を止められた。他のメーカーから供給してもらえよう、頭を下げてまわった。売り込んだ先には、こちらの事情で薬を変えてもらうわけにはいかないので、新規を開拓してまわった。イケイケドンドンで営業マンが30数名になった頃に、優秀な社員が顧客リストをコピーして独立した。社員の造反を経験し、大量のリストラで会社を立て直した」。

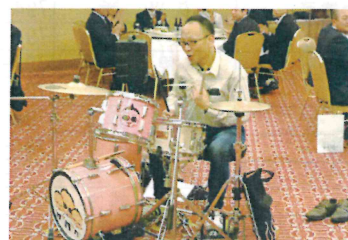
「国民金融公庫から借りていたお金が返せなくなった。どうしようもなくなって『返済を半分にしてください』と言いにいくと『よく来てくれた。あなたの会社は将来性があるから、無理のない返済



他単会からも多くの参加がありました



砂田会員の「乾杯!」で宴がスタート



松山会員によるアトラクション



懇親会で講師(前列右2名)を囲んで

倫理は父親が春日井市の立ち上げの時に会員になった。入会して30年。最初の10年間は遊んでいた。「万人幸福の葉」は読むが実践しない。実践を伴わない頭だけの倫理はやらない方がましだ。私は小学校5年生の価値判断がいいと思っている。正しいか正しくないか、美しいか美しくないか、美しいのが一番だと思う。美しいで判断すれば進む方向が見えて来る」。

「入社した頃、取引が1社に7・8割が集中していた。不況でその会社が整備をやめたので売上が急減した。130人の社員を60人にリストラした。本当に恨まれた。お客様に左右されない経営をしなくては行けない。一業種一社にしぼった。現在約300社と取引があるが、一番多いところでも10%以下。ある人に『下請けするのはせいぜい10年だぞ。10年経ってもやっていたら、社員にあぐらをかいているバカな経営者だ』と言われた。今は受注が1/3、OEMが1/3、自社製品が1/3。やり続けるのは大変だったが、社員の幸せのためにがんばった」。

懇親会は砂田羊一会員の乾杯でスタート。松山一志会員によるドラム演奏でヒートアップし、倫友との懇親が深まりました。倫理経営講演会に109名、懇親会には65名の参加がありました。

にしましょう』と言われた。助かった」。

「11年前に下半身が冷えるので病院に行くと3cm位の肺がんがあると言う。肺がんの生存率は35%程。友人もお客さんも肺がんで亡くなっていた。死ぬわけにはいかない。肺と背骨2本を取って術後は抗がん剤治療と食事療法。玄米を100回噛んで食べる。断食もした。生活を変える、自分を変える。自分がつくったがんだからなんとかできる!11年目に入っている。諦めたものがダメになる」。

続いて松尾隆徳氏から「大転換の時代~つねに活路あり~」の講演がありました。「エレベータのドアセンサーを作っている。1945年に父親が創業した会社の2代目。40歳で社長になり、62歳で会長、現在75歳。息子が5年前に継いだ。

## Tsuruhime MS Series

鶴姫モーニングセミナーシリーズ



砂田真裕美氏

### 3月7日(水) 砂田真裕美氏(朝日生命保険相互会社)「MSに参加するようになり、スイッチが入った」

テーマは「今までの自分を振り返って」  
「今治市の『さのや』というパン屋の3人姉妹の長女に生まれた。小さい頃から店番をしながら育ち、将来はパン屋を継ぐものと思っていた。長女はよく怒られるので、親の顔色を見ながら育った。小学校では身長も高く、習い事もしていたので何でも一番だった。唯一できなかったのが水泳。水に顔つけができなかった。小学校1年で顔つけできない子はプールに入れなかった。顔つけができるようになり水泳が好きになった。小学校2年からスイミングスクールに通うようになった。愛媛で3番以内の成績を納めるようになった。中学2年で身長が162cm、女子では大きい方で練習に明け暮れていたが、タイムが伸びず中学時代は停滞した」。

「東高に行きたいと思っていたが、父が『北高に行け』。逆らえず北高に進学。勉強はせずに水泳だけ。朝練をして放課後も泳いで何時間もプールに入っていた。同級生とは今でもつき

あいがある。最終的にはパン屋を継がなければと思っていたが、パン屋はやりたくない。気持ちの波があった中で助けてもらったのが保健の先生。養護教員になろうと短大に進んだ。卒業後、今治市の臨時職員を経て、愛媛ヤスリ機工(株)に入社。2004年、祖母が認知症になり、世話をするためさのやに入社し、店を手伝うようになった。朝5時に起きて父のいる工場に行くと、モノが飛んで来る。『パン屋を継がず気はない。本気なら休業して帰って来い!』興味がないことは父も知っていた。苦勞をさせたくないと思っていたのだろう。ある日工場に行くと、父が首をかしげて、手元からあんがポロポロ落ちていた。病院に連れて行くと初期の脳梗塞だった。1年リハビリをして仕事にも復帰した」。

「その後、朝日生命に入社、MSに参加するようになり、スイッチが入ったように思う。吹揚小学校の開校式や、えひめ国体のお手伝いなど、今までは頼まれ事は断っていたが、積極的になった。これからは家族のことを一番に考えながら、いろんなことに挑戦していきたいと思う」。



村山順子氏

### 3月14日(水) 村山 順子氏(法人レクチャラー)「気づき、即行動しなければ今の私はない」

テーマは「気づき即行」  
「鹿児島県沖永良部島生まれで5人姉妹弟の長女。18歳で親元を離れ、神戸の叔母宅に下宿して武庫川女子短期大学を卒業後に、産休の先生の代理教員になった。子ども達にとっていい先生になるしかない。一所懸命やっているとお母さん達の大応援団ができ、将来の女校長と言われるようになった。そんな時に叔父が見合い話を持って来た。第一印象はじゃがいもみたいな人、結婚する気はなかった。12月31日に会って1月1日にプロポーズされた。断ってもらうために『じゃじゃ馬ならしはできますか?』と言うと『任せてください』『お願いします』と結婚した。4人の子どもにも恵まれ感謝していた。ずっと平安な日々が続くと思っていた」。

「夫は教師で研修を担当していた。10月出張で『今日は寒いね』と出て行った。寒くないのに。その夜に電話があり『ご主人が倒れました。すぐ来てください』準備をしていたら『亡くなりま

した』尊敬できる夫であり父親だった。52歳だった。夫の死が受け入れられなかった。毎日、黒い服を着たまま閉じこもっていた。そんな時、亡くなる40日前の夫からの手紙が出て来た。『49回目の誕生日おめでとう。これからもいきいきした順子を見るのが楽しみです』夫は今の私を見てどう思うだろう?私が悲しめば悲しむ。喜べば喜ぶ。2011年3月11日、東日本大震災が発生。今できることを一所懸命やろう。友人が清掃会社を起業し、手伝うことになった。会社は急成長したが、やがて親友だった社長についていけなくなり、『辞めます。ついては仕事を分けてください』『あかんわ。でもあなたが取って来た得意先だから』と譲ってもらった。起業して誠実ががんばり、順調に行っていた」。

「ある日のMSで講師が『職恩』と書かれた。衝撃を受けた。起業してわかった。今があるのは前会長の社長のおかげ。すぐ電話をすると『忙しいのでまた今度』手紙を書いて『今があるのは社長のおかげです。会いたいです』その後電話があり、今では食事をする間柄。気づき、即行動しなければ今の私はない」。



杉山はるか氏

### 3月28日(水) 杉山はるか氏(愛媛県美術館)「美術学芸員の仕事あれこれ」

テーマは「美術学芸員の仕事あれこれ」  
「美術館は所蔵品がキーワードになる。大英博物館のロゼッタストーンや、ルーブル美術館のミロのヴィーナス、モナリザなどに直接関わっているのが学芸員。展示も重要だが、根底にあるのはどんな所蔵品を持っているか。作品が過去と未来を結ぶ重要なもの。愛媛美術館にはデザイナーの草分けで、三越のポスターなどを手掛けた松山市出身の杉浦非水(1876~1965年)の作品や収集品が膨大に所蔵されていて、先ほどの展覧会(2017.4.15~6.11)でやっと整理ができた。新居浜市出身のイラストレーター、アニメーターの真鍋博さんの作品もたくさん所蔵していて、東京駅で開催された回顧展にも貸し出した。絵画や掛け軸、彫刻などの作品の搬入・搬出は、私たち学芸員の立ち会いの下、日本通運さんが行っている。作品は台車に乗せて移動し、仮置きして展示のレイアウトを考える。壁の高さが5mあり、自走式の高所作業車・ピ

ーボ君で作業を行なう。ピーボ君の愛称は、音がピーボと鳴るから。絵の水平も最終的に目で確認する。年に1回、開館記念日にイベントとして展示作業を見てもらっている。人気がある。作品集を作ったり、美術館の広報誌『みるん?するん?』を発行したりもしている。土曜講座も毎週行なっていて、美術館を知っていただく機会を設けている。学校の課外授業で生徒の来館も増えている。問い合わせにも対応していて、中には『自分の作品を持って来たので展示してほしい』という人もいます」。

「『魚のすがた展』(2006年)にはさかなクンを招いた。昨年、レオナルド・ダ・ヴィンチと『アンギアーリの戦い』展を担当した。7万人を超える来館があった。国宝級の作品なのでイタリア人や修復家も同行した。海外から作品を借りる時は万全の体制で行なう。スタジオジブリの展覧会はすべて私が担当した。『借りぐらしのアリエッティ』展では10トントラックが何十往復もした。道後オンセナート2018のアーティストによる『坊っちゃん展』が6月30日~9月2日まで開催されます。ぜひご来館ください」。